

平成 26 年度
ESDユネスコ世界会議報告会 in 長野
運営補助業務

報告書

平成 27 年 3 月 23 日

NPO 法人 みどりの市民

目次

1. 目的及び内容
2. スケジュール
3. 基調講演
4. 地域の取組
5. 質疑・意見交換の概要
6. アンケート結果
7. 参加者・スタッフ名簿

1. 目的及び内容

昨年11月に、ESDに関するユネスコ世界会議が、岡山県及び愛知県にて開催された。ESDに関しては、環境省においても様々な業務においてその普及啓発に努め、ESDに関するフォーラム等を開催し、ESD関係者の交流を図り、その推進を行っている。

本業務は、上記業務の一環として、今回世界会議に関する報告等が行われていない長野県に於いて報告会を実施し、当該地域におけるESDを推進しようとする中部地方環境事務所（以下「事務所」という。）が主催する会議の運営補助等を行うものである。

報告会の概要は以下のとおり。

名 称：ESD ユネスコ世界会議報告会 in 長野 ～地域が支えるESD～

日 時：平成27年3月7日（土）14:00～16:30

場 所：長野市生涯学習センター3階第1学習室

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1271-3 ToiGO WEST 3F

参加者：NPO/NGO、教育関係者、学生、行政など

主 催：環境省中部地方環境事務所

協 力：中部環境パートナーシップオフィス、一般社団法人長野県環境保全協会

後 援：長野県、長野市、長野ユネスコ協会

目 的：国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）の最終年にあたり、岡山及び愛知・名古屋においてESD ユネスコ世界会議が開催された。その成果とDESDの次のステップとして何が地域に求められているのかを知り、地域の持続可能性を高めるためには、地域はどうあるべきかを考える。

内 容：世界大会の報告と長野での事例報告を踏まえて、参加者の意見交換の時間を十分に取り、今後の展開の機会とする。

運営に当たっては、開催日時・場所の調整が整い次第、NPOみどりの市民が開催準備（資料の調整、必要機材の準備、講師等との連絡調整など）と広報を進めた。また、後援依頼作業も行い、長野県、長野市、長野ユネスコ協会に後援を頂いた。

当日は、会議資料の準備・配付、会場の機材等の設定と調整、会議内容の記録（会議の内容・質疑等の記録、写真撮影を含む）、会議開催時の会場案内・受付事務及び会場管理等を行い、記録を作成した。

2. 当日スケジュール

13:30 開会&あいさつ

13:40 「ESD ユネスコ世界会議の成果と今後のESDの展開」

鈴木克徳 氏（国立大学法人金沢大学 環境保全センター長教授）

14:30 環境省・持続可能な社会作りを担う人材育成事業～長野県での取組について～
中澤 朋代氏（松本大学総合経営学部 准教授）

丸山勝久（事例発表：松本市立会田中学校長）

石塚聡実（事例発表：NPO 法人やまたみ理事）

14:50 地域におけるこどもの環境学習の支援の仕組み

渡辺 隆一氏（信州大学教育学部 特任教授）

15:10 休憩&配置替え

15:15 質疑・意見交換

15:55 まとめ

16:00 閉会



3. 基調講演

「ESD ユネスコ世界会議の成果と今後のESDの展開」

金沢大学環境保全センター長 教授 鈴木 克徳 氏

1. はじめに

平成26年は、国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）の最終年に当たり、岡山等で一連のESDステークホルダーの会議が開かれるとともに、それらの成果を踏まえて愛知・名古屋でESDに関するユネスコ世界会議（ESDユネスコ世界会議）が11月に開かれ、ESDの更なる推進に向けて世界的な合意が形成された。国内的にも、それらの成果を受け、ESDの一層の推進に向けた取組が始動した。

2. ESDの更なる推進に向けた国際合意

11月10～12日にかけて開かれたユネスコ主催のESDユネスコ世界会議では、あいち・なごや宣言が採択されるとともに、今後のESD推進の世界的な枠組みであるグローバル・アクション・プログラム（Global Action Programme : GAP）が開始された。GAPは、平成26年末の第69回国連総会で決議され、ESDが、10年間のキャンペーン期間を終え、本格的な実施の段階に移行することが世界的に合意された。

3. 国内での更なる推進に向けた取組

文部科学省は世界会議の成果を踏まえ、平成26年12月8日に都道府県知事、教育長に対し、ESDの更なる推進に向けた協力依頼通知を発出するとともに、学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会への諮問（平成26年11月20日）の中でもESDの重要性を指摘した。次に改訂される学習指導要領においては、ESDの重要性がさらに強調されると期待される。また、平成26年度から開始した地域のESDコンソーシアムに対する助成を充実し、様々なステークホルダーによる地域でのESD推進のネットワークづくりを強化することとしている。環境省は、こ

れまで実施してきた「持続可能な社会作りを担う人材育成事業」を継続するとともに、地域でのネットワークを支援するための全国的な仕組みづくりを進めることとしている。地域レベルでは、ESD 推進のための地域拠点（RCE）や新たに文科省が始めた地域コンソーシアム事業などを通じ、地域の様々なステークホルダーが集まり、情報・経験の交流や協働の機会づくりを進められるような対話のプラットフォームづくりが進められる見通しである。北陸では、北陸3県がそれぞれマルチステークホルダーによるESD 推進体制を整備するとともに、3県全体で緩やかなネットワークを形成することを目的として、平成26年9月に北陸ESD 推進コンソーシアムが設立された。

4. まとめ

更なるESD 推進に向けた世界的な合意を受け、日本でもESD の一層の推進に向けた仕組みづくりが進められつつある。キーワードは、情報や経験を交流し、協働の機会を得るための地域におけるマルチステークホルダーの対話の場の構築である。



4. 地域の取組

①「環境省・持続可能な社会づくりを担う人材育成事業～長野県での取り組みについて～」

松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代氏

1、事業の概要

「持続可能な社会づくりを担う人材育成事業」とは、環境省が平成24年度から26年度の3年を目途に行うもので、① ESD モデルプログラムを作成する、② ①にさらに地域性を加味して、小中学校と地域が連携した授業を実際に展開する、③ このESD 授業を公開し認知を広め、より多くの学校現場・地域での推進を図る、としています。中部7県での実施では映像資料を作成し、ICT教材の可能性を探ることもひとつの特徴となっています。

長野県ではこれまでに、H24年度には松本市立現地小学校にて3年生の森林体験授業が、H25年には松本市立会田中学校にて2年生の学校登山及び学校林を中心とした自然資源に関する授業がモデル事業として実施されました。この授業の推進に伴い、行政・有識者・現地コーディネーター等で構成するワーキング会議が開催され、地元講師であるゲストティーチャーと連携しながら、実施校のカリキュラム策定や推進に支援を行ってきました。

2、学校と地域が連携したESD 展開のポイント

これまでの2年間で見てきたポイントを以下に整理します。

学校、教員側の課題

- ・授業時間の確保【教科】
- ・費用が少ない【経営】
- ・地域の課題が見えにくい【地域・転勤】
- ・講師の顔、窓口が分からない【仕組み】
- ・児童・生徒の意見が拾いにくい【人材】
- ・答えのない授業はつくりにくい【人材】

地域、講師側の課題

- ・学校向けの切り口が分からない【教科】
- ・学校への窓口が分からない【仕組み】
- ・先生が忙しい、話ができない【仕組み】
- ・活動はボランティアになりがち【経営】
- ・授業後の評価が分からない【仕組み】
- ・学校向けの指導法が分からない【人材】

解決策)・身近なコーディネーターが相互の欠点をつなぐ、補う。
の一部)・学校の先生はファシリテートを学び、児童生徒に寄り添う
・地域の講師は学校の事情を理解し、善意と熱意を持って接する

松本市では数年前からコーディネーターとして、「中信環境教育ネットワーク」という任意団体が産官学民の有志で機能しています。詳しくはパンフレットをご参照ください。

3、会場の皆さまと考えたいこと

誰のため、何のために学校教育があるのでしょうか。地域の課題を見つけ、解決する力を子どもたちが身に付け、その教育に大人が関わることは、地域経営や学校経営、人材開発等にどのように影響していくのでしょうか。その仕組みはどうあると良いのでしょうか。



②地域におけるこどもの環境学習の支援の仕組み

信州大学教育学部 特任教授 渡辺 隆一氏

1. 長野市の環境とこどもの環境学習は？

長野市は環境首都コンテストで人口 30 万人以上（大都市）の部で全国 1 位になったこともあります。特に市民参画と温暖化対策は全国 1 位と高く評価されています。

長野市は盆地ではありますが、大気や水などの公害も少なく、山々に囲まれて緑も多く、自然豊かな環境の良い都市であることから、人々の環境への関心はあまり高くはない。

しかし、長野市におけるこどもエコクラブは最盛期には 52 クラブに達し、自然観察やごみ問題などの活動する環境 NPO もまた数多い。

現在、市内の小学校 54 校、中学校 24 校ではいずれも教科や児童会などで環境教育や環境活動に取り組んでおり、環境教育の連絡組織もあってかなり計画的に実施されており、十分普及したとまで言われる。しかし、大学生に聞くと小中学校で環境教育を経験したというのは 2 割程度である。「空き缶拾い」や「川の清掃」

「牛乳パックのリサイクル」などを学校側は環境教育と設定し報告しているが生徒達は清掃活動やボランティアととらえているからではないだろうか。環境活動で多い「空き缶拾い」では、拾うだけではなく、人はなぜ缶を捨てるのか？無くすにはどうすれば良いのか？など、人間の心や行動、社会的な規範やルールなど多面的に「空き缶問題」を考える学習機会としないのであれば、単なる奉仕体験に止まる。真に環境問題解決への参加能力を高め、将来の持続可能な社会を創るためには、一人ひとりの自主的な環境価値観や知識、深く考える能力が必要である。ESDなどの言葉やリサイクル活動が普及してもその目的・目標を理解してもらうにはまだまだ多くの課題がある。また、環境活動の体系的、実践的な地域活動にまではなかなか広がってはいない。

現在の教育界は「学力問題」や教員ばかりではなく生徒の「多忙化」など多大な課題があり、新たな環境教科を定着させる情勢にはない。現状の不十分な学校内の環境的活動を地域やNPOが支援し、児童生徒が地域の環境課題とかかわりながら具体的に学び活動してゆくことが何よりも大事である。

2. 環境学習支援事業と国際ユース環境会議

そのために、松本市における「中信環境教育ネットワーク」をモデルにして、長野の環境NPOや企業が小中学校の環境活動を支援する仕組みを長野市にも構築すべく、2014年より長野市教育委員会、長野市環境政策課、長野県環境保全協会などに呼びかけて意見交換をはじめている。目的を、①近年、環境活動を重要な社会的責任として社内のみならず社外においても様々に実施してきた企業における、環境学習のノウハウを小中学校での学習の向上支援に生かすこと。②地域の環境に関わる活動を通じて豊かな経験や知識を持つ環境NPOなどが学校での環境学習に関わっていくこと、として企業やNPOへの参画を呼びかけている。

また、中学生になるとこどもエコクラブへの参加は急減し、せっかく環境への関心が芽生えた生徒も中学、高校では環境活動への参画の機会はほとんどなくなってしまふ。環境活動やESDが地域に根づくとは、こどもから大人までが様々なレベル、段階で地域の環境を知り、考え、環境活動に参画し、成長してゆく仕組みを作ることである。そのために、中高大学生に呼びかけて「国際ユース環境会議」を2012年より毎年開催している。環境への関心が高くない長野市民であるが、若者に芽生えかけている世界への憧れと環境とを結びつけて改めて自分達の地域とその環境とを知り、考えてもらうことを目的にしている。



5. 質疑・意見交換の概要

ワークショップ形式（1グループ5～6人に設定、当日は6グループ作成）で、意見交換をおこなった。テーマは「ESDを進めるために」とし、全体のファシリテーターは中澤朋代氏に行っていただき、各グループのファシリテーターとして、鈴木教授、渡辺特任教授、石塚氏、高木（中部地方環境事務所）、高橋（EPO 中部）、渡辺（みどりの市民）が参加。始めに各自の課題について、自己紹介を行いながら話し合い、それらの課題を解決するためにはどのようにすればよいのかを話し合った。グループ討論の後、各グループ毎に意見交換の概要を発表した。

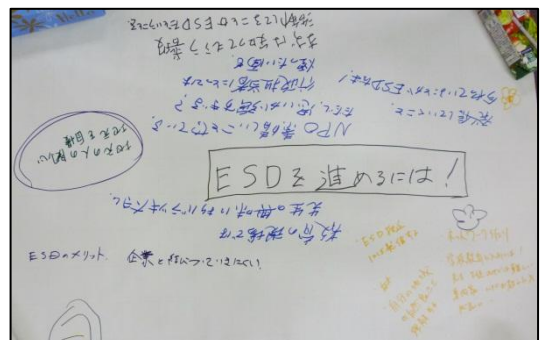
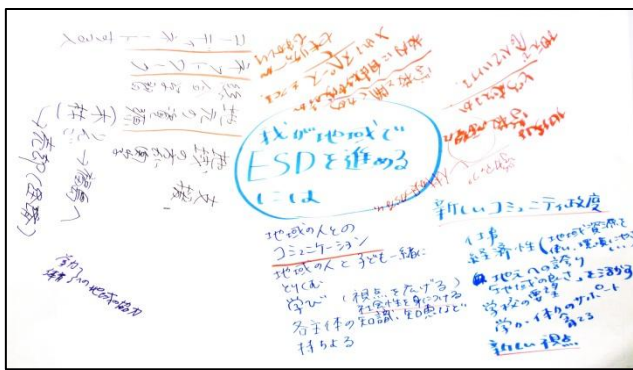
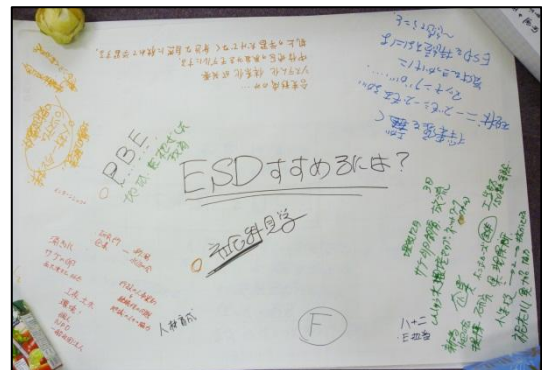
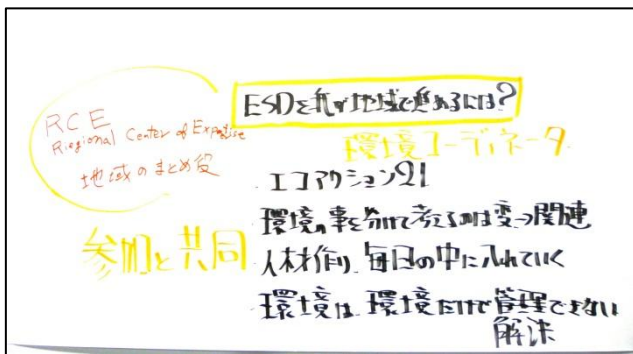


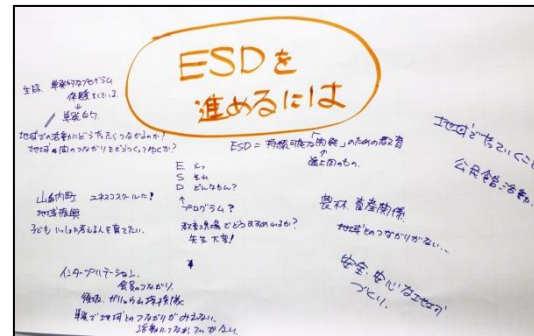
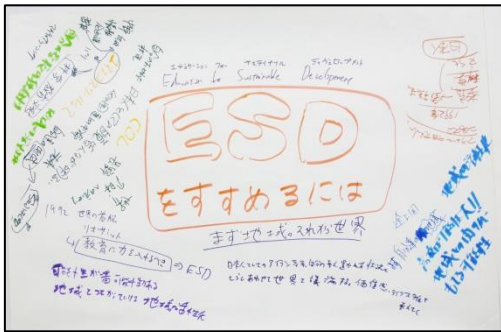
各グループの討論内容の概要

- 1 : 地域のまとめ役 (RCE) が参加と協同を！
- 2 : ネットワーク、コミュニケーションなど地域の子どもの取組が重要
- 3 : 人材育成、未来を描く、子どもの社会科見学などを長く継続すること！
- 4 : ESD を発信しよう、知ってもらい関心を高めよう！
- 5 : 農林業を地域につなげ安全・安心な地域づくりに！
- 6 : 教育に力を入れて、まず地域を、そして世界へ！



意見交換の内容をまとめた模造紙





6. アンケート 結果

*アンケートは 20 名から得られ、参加者 30 名のうち約 70%であった。以下集計結果と*分析コメント

1. ESD についてご存じでしたか

1. 言葉・内容ともに知っている : 10 2. 言葉は知っている : 5 3. 知らなかった : 5

選択番号および<理由>

- 1 内容、なかなか難解で理解が表面的しかできない
- 1 およその内容は知っているつもり、中野西高校がユネスコスクールに名乗りを上げている関係で
- 1 大学でESDを進めている先生がいらしたから
- 1 仕事に関連して
- 1 銀行の環境施策立案者として、環境教育を実施している
- 1 勤務校がユネスコスクール申請準備中であり、学校の中核活動とするため研修を受けているため
- 2 地域のシストしを通した将来像が必要
- 2 言葉は知っているがどうアクションを起こせばよいのか、なかなか理解できなかったがぼんやりと分ってきた気がする
- 3 このような分野に接したことが無かったから
- 3 日常生活において目や耳にする機会がなかったため
- 3 今日初めて鈴木先生により知りました

2. 本日の報告会の内容について (該当数字に○)

○基調講演 1. 非常に良かった : 11 2. 良かった : 8 3. 普通 : 1

選択番号および<理由>

- 1 ESDの重要性、世界の流れ若者たちへの普及の重要性などわかりやすくお話しいただいた。本校でのESDに向けて参考になる点が多かった。
- 1 現状が良くわかりました。また、これから進むべき事項が理解できました
- 1 ESDの全体像が概観できる
- 1 ESDという存在、教育の地域の大切さを知ることができた (高校生)
- 1 北陸のESDについて聞くことができたから
- 1 ESDの概念や今後の方向性について学ぶことができた
- 2 こうした教育の考え方を知る契機になったから

- 2 ESDを意識させぬ内容だった
- 2 概要がやっと理解できた
- 2 今までの10年間はESDの合意形成
- 2 ESDを通してなにをやりたいのか、課題は何なのかを平易な言葉で語っていただいたため
分りやすかった

~~~~~

\*ESDの世界と日本の概況が解説され、全体像が理解されたのではないかと

○地域の取組 1. 非常に良かった:7 2. 良かった:10 3. 普通:1

選択番号 および<理由>

- 1 具体的な事柄、実態が理解できた
- 1 松本地区での小中学校での実践例がわかり、] ESDのイメージが広がった気がする。  
持続可能性社会が大目的でその過程に環境教育がある。  
環境は長野市は最高レベルにあるなど学ぶことが多かった。
- 1 会田中の対応が印象的に残りました、今後の蓄積が大切と思います。
- 1 具体的実践の様子がとても参考になった
- 1 中学の事例について良かった。苦勞した点等詳しく聞くことができたので
- 2 長野県内で様々な団体がESD活動、環境活動にとりくんでいることが分かり有意義だった
- 2 具体的に行われていることに接することができたから  
私の地域ではESDを無意識のうち実行している

~~~~~

*具体例としてはかなり理解されたのではないかとと思われる。

3. 意見交換会 1. 非常に良かった:13 2. 良かった:4 3. 普通:2

選択番号および<理由>

- 1 我が地域でESDを進めるにはと題して討論。当グループには最年少の屋代高校の生徒が一人参加
グループ毎に有意義な討論を発表しあい、非常に刺激になり、良い企画と思った。
- 1 いろいろな意見が聞くことで良かった
- 1 皆の意見がいろいろと出たので良かったと思う
- 1 参考になった
- 1 短時間で、多様な視点で意見交換ができた
- 1 先生方とコミュニケーションを持つことができた、より広い考えを知ることができた
- 1 率直な意見、疑問をきくことができた。
- 1 色々な立場の方の意見が聞くことができたので
- 2 幅広く様々な立場の方々の考え方を知ることができてよかった
- 3 短すぎる
- 3 時間不足

~~~~~

\*各自の意見や疑問を提示できて、意見交換の効果が高かったと評価される。

#### ■今回の報告会全体についてのご意見、ご感想

- ・北信に学生生徒達へのアプローチするコーディネーター役の組織が是非必要
- ・ESDの具体的なイメージ作りに非常に役にたった。より若い年代の人々が参加してくれると素晴らしい
- ・サステナビリティの一環としてとらえていきたい
- ・勉強になりました
- ・また、開催して下さい
- ・多様な方と意見交換できた点とても有意義でした
- ・もう少し長くてもよかった、盛り上がりました
- ・意見交換会で先生方だけでなく、一般のみなさんの意見も聞くことができたことをとてもうれしく思った
- ・学校で環境問題・人口問題について学んで、持続可能な社会を作ることに関心を持っている高校生がパンフレットを見て参加し、考えを述べてくれました。こういう力を持つ生徒、大人をそだてていくことなんだなと思ったことが何よりの収穫でした。
- ・みなさん考えていること、思っていることは同じだと思った。(ESDは浸透していない)
- ・ESDのことが身近なものにかんじられたため、参加して良かった
- ・全く初めてのことで、新しい世界に触れることができて新鮮でした
- ・意見交換の時間をもう少し長くして欲しかった

#### ■環境教育・ESD 施策についてのご意見、ご要望

- ・サケ卵放流のプロジェクトの実例紹介、ESDの一つの〇〇のない活動の一つだった
- ・今いる地域との連携がまず重要で、それが発展して世界的規模での動きに関連していけるのだと思った。高校生あたりへのPRを更に進めて欲しい。
- ・地域への展開を考えていきたい
- ・コーディネートする人、ネットワーク、体現化が大切だと思った
- ・もっと身近に、だれでも分かりやすい様に周知など
- ・ぜひ、NPO、行政、がっく、大学と連携してできるように進めたいと思います
- ・私の高校で、生徒が主体となって、環境・地域問題に取り組むということが足りないということを実感しました。これから学校でもいろいろな活動をしていこうと思います。
- ・つながりが大事だと思った
- ・やっている人には見えているが、言い出しっぺの方はどうなっているのだろうか、地域はもがきながらもやろうとしている所増
- ・環境教育は特別のものではなく、日常の生活や仕事に取り入れていけるものだと思います
- ・結局、ESDに沿った教育は持続可能社会につながる経済効率重視の下での教育とどこが違うかは、初歩的な問題として取り扱われなかったようで、良く理解できませんでした。今後考えてみます。
- ・小さい子供からの教育が必要と思う

~~~~~  
*全体に報告会として理解が進み、長野における具体例や現状が示され、質疑や意見交換が十分に行われたことで、高い評価が得られたと考えられる。

7. 参加者・スタッフ名簿

参加者

小口雄平氏・大日方聡夫氏・株丹氏・酒井義之氏・坂本氏・新山正隆氏・瀧口晃氏・武田洋一氏・土屋三郎氏・中沢博道氏・西沢和雄氏・平澤氏・藤村よしえ氏・増尾はる子氏・宮坂幸夫氏・山岸氏・横坂楓氏・若林暁郎氏・佐々木香氏・松岡保正氏・村松浩幸氏・大洞盛胤氏・飯田秀樹氏・樋口嘉一氏・布施教子氏・平林昭敏氏 以上 26 名

講演者及びスタッフ

鈴木克徳氏（基調講演：金沢大学環境保全センター長教授）
中澤朋代氏（事例発表：松本大学総合経営学部准教授）
丸山勝久氏（事例発表：松本市立会田中学校長）
石塚聡実氏（事例発表：NPO 法人やまたみ理事）
渡辺隆一氏（事例発表：信州大学教育学部特任教授）
高木丈子（主催者：環境省中部地方環境事務所環境対策課企画係長）
宮島和雄・越幸男（協力団体：一般社団法人長野県環境保全協会）
高橋美穂（スタッフ：EPO中部）
大塚道子・渡辺ヒデ子・清水久美子・駒村俊明（スタッフ：みどりの市民）

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。